

特集

外科医が知っておくべき がん薬物療法の副作用と その対策

外科医のみならず、がん治療に携わる医師は「集学的治療」の遂行に力を尽くさねばならない。また、支持療法なども含めた様々の立場からの総力を結集した「チーム医療」と「マネジメント」が重要である。このようななか、がん薬物療法に関しては腫瘍内科医がその中心的存在であることはいうまでもないが、わが国における現状では多くの外科医がそれを担っているのも事実である。

外科医にとってがん薬物療法は「進行・再発がん」に対して行うことはもとより、術前・術後の「補助療法」として施行する機会も多く、その効果および薬剤選択に関する最新の知識を有することと同時に、有害事象、副作用に対する対応はますます重要性を増している。

そのような現状に鑑み、本特集を企画した。多くのがん治療に携わる外科医の診療に有益な情報を提供し、ひいてはがん治療を受けている患者さん、さらにはその周囲の方々に恩恵をもたらすことを切に願うものである。